普及活動現地情報

「農業現場では、今」

【東牟婁振興局】県産農産物（うめ）の出前授業を実施

令和７年６月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

は　じ　め　に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

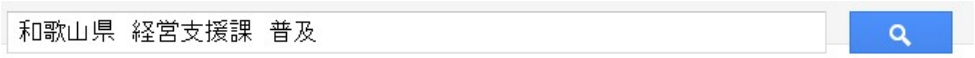
それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ　普及現地情報アドレス

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



＜ 目 次 ＞

頁数

Ⅰ　海草振興局 1

1．小学生が田植えを体験
2．海南市生活研究グループ連合会が「食品ロス削減を考える天ぷら講習会」を実施

Ⅱ　那賀振興局 2

1．山崎小学校で「うめの出前授業」を実施
2．根来小学校で「ねごろ大唐の出前授業」を実施

Ⅲ　伊都振興局 3

1．食育活動としてうめの出前授業を実施

Ⅳ　有田振興局 4

1．宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を開催
2．田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催

Ⅴ　日高振興局 5－6

1．令和７年度由良町農業士会第１回夏季研修会を開催
2．美浜町ジャンボタニシ一斉駆除を実施
3．クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施
4．施設ピーマンの天敵定着状況調査を実施

Ⅵ　西牟婁振興局 7

1．重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～うめ摘心＋カットバック処理実証園の収量調査結果～
2．西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

Ⅶ　東牟婁振興局 8－9

1．県産農産物(うめ)の出前授業を実施
2．くろしおナス組合及びくろしおピーマングループが栽培出荷検討会を実施
3．クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施
4．那智勝浦町の小、中学生がスイートコーンの収穫を体験

Ⅷ　農林大学校 10

1．２年生のインターンシップ研修

Ⅰ　海草振興局

1．小学生が田植えを体験

農業水産振興課では、農業体験を通じて農産物の生産への関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、体験学習の指導を行っている。6 月 19 日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において和歌山大学教育学部附属小学校の 5 年生 63 名を対象に田植えの体験学習会を行った。

児童は貴志氏から水稲の品種や苗の植え方について説明を受けた後、田植え作業を体験した。初めて田植えを体験する児童も多く、慣れない足場や初めて見る生き物に戸惑っていたが、徐々に慣れていき、田植えを楽しんでいた。

田植え体験

田植え後、児童らは「米を作るときに工夫していることはあるか」、「この田んぼでどれくらい苗を植えるのか」など積極的に質問をしていた。10 月には稲刈り体験を予定している。

2．海南市生活研究グループ連合会が「食品ロス削減を考える天ぷら講習会」を実施

6 月 30 日、海南市婦人の家において、海南市生活研究グループ連合会（会長：奥 博子氏）が「食品ロス削減を考える天ぷら講習会」（一般社団法人栄養改善普及会事業）を実施し、会員と関係者 25 名が参加した。

最初に、愛宕知子講師から残った野菜や食材を賢く使い切り、無駄なく調理するには「天ぷら料理」が最適であると食品ロス削減を考える講話があり、その後、調理実習を行った。今回は、2 種類の天ぷら粉とオレイン酸高含有のひまわり油を使用し、天ぷら料理 3 品を含む合計 7 品を作った。出来上がった料理を試食しながら意見交換を行い、参加者からは「初めて使った油だが、少ない量でカリッと揚がった」、「美味しく出来上がった」等の意見があった。

この講習会を通じて参加者は調理方法の知識を深め、改めて食品ロスの削減について認識を新たにした。

調理実習の様子

完成した天ぷら料理

Ⅱ　那賀振興局

１．山崎小学校で「うめの出前授業」を実施

6月12日、岩出市立山崎小学校の4年生3クラス107名を対象に、うめの出前授業を実施した。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに、森普及指導員、小野寺副主査、遠田技師がそれぞれのクラスでクイズを交えながら県内のうめの生産状況や品種、また産地で問題となっているクビアカツヤカミキリについて講義を行った。

その後、体験授業としてうめジュースづくりを行い、児童たちは竹串を使って慎重に梅のヘタを取った後、表面に穴を開け、砂糖と交互にうめをビンに入れて完成させた。児童達からは「ヘタを取るのが難しい」、「うめジュースが出来るのが楽しみ」といった声が聞かれた。

梅ジュースの作り方について説明

２．根来小学校で「ねごろ大唐の出前授業」を実施

6 月 20 日、岩出市立根来小学校の 3 年生 65 名を対象に、ねごろ大唐の出前授業を実施した。根来小学校の 3 年生は総合的な学習の時間でねごろ大唐をテーマに取り組んでおり、その一環で今回の授業が企画された。

小野寺副主査が、ねごろ大唐の特徴や名前の由来、栽培方法、食べ方についてクイズを交えて説明した。児童達からは「一株でどれぐらいねごろ大唐がとれますか？」、「一日にどれぐらい水をあげたらいいですか？」、「ねごろ大唐にはどんな栄養が多く入っていますか？」等の質問があった。

今後、児童達はねごろ大唐を栽培し、収穫後は今回の授業で紹介したレシピで調理実習を行う予定である。

ねごろ大唐のクイズに挑戦する児童達

Ⅲ　伊都振興局

１．食育活動としてうめの出前授業を実施

6 月 11 日、橋本市立柱本小学校の 5 年生 17 名を対象に、うめの出前授業を行った。

この授業は、生徒達が県産果実の知識を深め、昨今のうめの不作や農作業の苦労を通じて食に対する感謝の気持ちや郷土愛を醸成することを目的として行っている。

はじめに、県庁果樹園芸課の仲課長より生徒代表にうめの贈呈が行われた後、農業水産振興課の山口技師が、和歌山県のうめの生産量や品種、また近年問題となっている雹やクビアカツヤカミキリなどの被害状況について説明を行った。

その後、うめジュースの作り方について説明し、水洗いしたうめを生徒各自がアルコールで消毒して砂糖と一緒に瓶詰めを行った。作業終了後生徒からは、「砂糖を瓶に入れるのが大変だった」「うめジュースができるのが楽しみ」という声が上がった。

今後も、伊都地方の地元特産物の活用や地産地消をテーマとした食育活動に取り組む。

うめの贈呈式

うめの出前授業

うめジュースづくり

Ⅳ　有田振興局

1．宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を開催

有田市立宮原小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の時間で「宮原町の農業について」の授業を行っている。6 月 4 日、農業水産振興課は 6 年生 41 名を対象に授業を行った。

授業では、武内普及指導員と林普及指導員が、和歌山県はみかんやうめ、山椒などの生産量が日本一で、果樹王国であることを紹介し、その後みかんやうめの栽培、果物の機能性成分等についての授業を行った。

次に、地域でいちごの栽培を行っている農業士の松本智行氏から、農業を営むうえでの喜びや、天候に左右される難しさ、無農薬栽培へのこだわり等について講演があった。

児童からは「果物はたくさん栄養があり体に良いことを知った。今日の授業を今後の生活にも活かし、いちごやみかんなどたくさん果物を食べたいと思う」等の感想があった。

松本氏による授業

2．田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米作り「田んぼの学校」に取り組んでいる。

今年度は 6 月 16 日に 5 年生による苗取り作業、6 月 17 日に全校生徒による田植えが行われた。

「田んぼの学校」校長である山﨑佳彦氏（元指導農業士）が田植えの方法について説明した後、児童らは一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも地元農家の掛け声に合わせて一斉に植えていった。終了後、児童からは「美味しいお米を作るのは大変だと分かった」や「地域の農家さんが大勢手伝ってくれて有難さを感じた」などの声が聞かれた。

また、同月 23 日には児童が孵化させたアイガモのヒナと購入したヒナの計 16 羽を田んぼに放った。

田植えをする児童ら

水田にアイガモを放す児童ら

Ⅴ　日高振興局

１．令和７年度由良町農業士会第１回夏季研修会を開催

6 月 20 日、由良町農業士会(会長：城墓泰裕氏)が、ＪＡ由良柑橘集荷場及び現地ほ場において第 1 回夏季研修会を開催し、会員 11 名が出席した。

研修会ではまず、日高振興局農業水産振興課の柏木普及指導員より、温州みかんの花芽抑制による隔年結果性是正や摘果省力化などを目的に振興局、ＪＡ及び（株）住友化学が農業士会と協力して行っている冬季ジベレリン散布における今年春の結果について説明が行われた。

現地ほ場での状況確認

その後、昨年 12 月にジベレリン散布実演会を行ったほ場に移動し、樹の状態を確認するとともに、ターム水溶剤（摘果剤）を散布した樹も比較対象として設定していることから、剤ごとの効果の違いを見比べた。

会員からは、「現地試験では、悪い結果、よい結果双方の状況を身近で確認することができ、自身のほ場での散布の判断基準となる」、「剤の特性をよく理解して活用することで省力化や安定生産につながることを実感した」との感想があった。

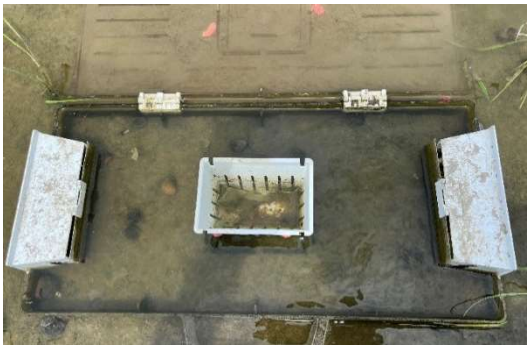
集荷場での研修の様子

２．美浜町ジャンボタニシ一斉駆除を実施

美浜町は水稲の栽培が盛んだが、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）による食害が問題となっている。そこで、地域の農業者、美浜町役場、ＪＡわかやま紀州地域本部及び日高振興局が参集し、6 月 22 日に一斉駆除活動が行われた。農業者は自身が保有するほ場周辺のジャンボタニシを捕獲し、町、ＪＡ及び県職員が水田を巡回して発生状況を確認した。今年は例年より 1 週間前倒しで行ったため、全体的にサイズが小さい個体が多かった。また、今年から、ジャンボタニシの捕獲機を導入し、省力化を図ったが捕獲効率が悪かった。関係者からは、「捕獲機の設置場所を含め、さらなる改善に努めていく必要がある」との意見があった。

捕獲したジャンボタニシは、町職員が焼却場に持ち込み、処分した。

農業者によるジャンボタニシ捕獲の様子



ジャンボタニシ捕獲機

３．クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

日高地域では令和５年からクビアカツヤカミキリの被害が確認されており、令和７年５月末までのクビアカツヤカミキリの累計被害状況は、御坊市では 39 カ所、72 本、由良町では５カ所、10 本、美浜町では１カ所、５本、日高川町では 44 カ所、198 本であり、今年度も新たな被害が報告されている。

被害拡大防止の対策を講じるため、被害実態の把握を目的とした調査を御坊市、由良町、美浜町及び日高川町で６月 12 日から６月 27 日にかけて実施した。のべ 58 名で 457 か所、6,236 本の樹木を調査し、クビアカツヤカミキリの被害は 42 本で確認された。被害は、昨年度に被害を受けた園地で多く確認された。その後も確認が続いていることから、クビアカツヤカミキリの防除や啓発に努めていく。

会議の様子

悉皆調査の様子

４．施設ピーマンの天敵定着状況調査を実施

御坊市では、施設を利用したピーマンの長期どり栽培が行われている。

近年、コナジラミ類やアザミウマ類のいわゆる微小害虫の薬剤抵抗性が発達し、薬剤防除だけでは、被害を回避できないほ場も出てきている。こうした背景から、総合防除に注目し、その一環として天敵の活用に取り組んでおり、令和５年度作から導入経費の軽減を図るため土着天敵であるタバコカスミカメの試験導入を始めた。

令和６年度作では、誘引植物となるクレオメ、ゴマを施設外に植えて飛来したタバコカスミカメを施設内に放飼し、その定着状況と害虫の消長をＪＡわかやま紀州地域本部、農業試験場環境部とともに概ね月２回のペースで調査した。その結果、２ほ場では、タバコカスミカメが長期に定着し、従来よりも薬剤防除の回数を減らすことができた。使用できる薬剤の制限や初夏の害虫が急増する時期に天敵をどう対応させるかなど課題も浮き彫りになったが、農家の注目も高く、次年度作に向けて課題解決の検討を進める予定である。

天敵と主要害虫の数、被害程度を調査

調査結果を踏まえて農家に状況と対応を指導

Ⅵ　西牟婁振興局

1．重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～うめ摘心＋カットバック処理実証園の収量の査結果～

うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心＋カットバック処理実証園の収穫調査を 6 月 12 日に上富田町岡（20 年生樹）で実施した。

農業水産振興課では、摘心処理の導入により果実の安定生産を図るとともに、低樹高化や徒長枝の発生を極力少なくする枝梢管理技術の確立を目指している。

上富田町岡の実証園では、春季の摘心処理を 3 ヶ年継続して実施した。青梅の収穫調査では、慣行樹に比べ 2 倍以上となる 1 樹当たり約 90kg の収量が得られた

収穫作業については、慣行樹では徒長枝の発生により枝をかき分け樹の中へ入り、樹高が高いため、樹上部では脚立の使用が必要であったが、摘心＋カットバック樹では、樹高が低いため、着果位置は腰から胸のあたりに集中し、樹上部の収穫はコンテナに乗るだけで可能となり、効率よく収穫できた。

今後は、枝梢管理労力の軽減に向け、夏季の摘心処理を追加導入し、徒長枝の発生を極力少なくする技術の確立を目指す。

上富田町実証園収穫作業風景（左：摘心＋カットバック樹　右：慣行樹）

2．西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

振興局関係各課、市町、ＪＡ、県研究機関で構成される、西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議が、6 月 24 日に開催された。

会議では、県内のクビアカツヤカミキリの被害状況や西牟婁地域内で年間 2 回実施している定点調査の結果について、報告が行われた。定点調査では、うめ、すもも、さくらの 3 品目・計 1,846 本を調査し、現時点で被害は確認されなかった。

また、クビアカツヤカミキリの被害は近隣地域で確認されており、西牟婁地域でいつ被害が確認されるか分からない状況になっているため、被害発生確認後の、悉皆調査の実施方法や、調査で使用する地図の作成方法について再度確認した。

今後も調査を継続し、チラシの配布による周知、啓発を行い早期発見に向け警戒を強める。

被害発生確認後の対応について協議

Ⅶ　東牟婁振興局

１．県産農産物(うめ)の出前授業を実施

和歌山県では地産地消の取組として平成 24 年度から県内小学校・特別支援学校に対し主要農産物を教材として提供しており、併せて出前授業を行うことで、農業に対する理解を深め、郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

東牟婁地域では 6 月 10 日に那智勝浦町色川小学校へ県産うめを提供し、出前授業を実施した。

1、2 年生 6 名に対して農業水産振興課の濵端技師が「うめの一年間の流れ」、「うめの降雹被害」を紙芝居形式で説明し、児童からは、うめの味付けや料理方法についての質問があった。

その後、児童は教材のうめをもとに「うめジュース作り」を体験した。児童からは「ジュースの完成が楽しみ」といった感想があがった。

紙芝居による授業

２．くろしおナス組合及びくろしおピーマングループが栽培出荷検討会を実施

6 月 12 日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）が新宮広域圏公設地方卸売市場で、栽培出荷検討会を実施し、生産者 4 名、市場関係者 3 名、ＪＡわかやま職員 1 名、農業水産振興課 2 名の計 10 名が参加した。また、6 月 19 日にくろしおピーマングループ（代表：瀧本ふさゑ氏）が高津気会館（那智勝浦町）で栽培出荷検討会を実施し、生産者 3 名、市場関係者 2 名、ＪＡわかやま職員 1 名、当課 2 名の計 8 名が参加した。

くろしおナス組合では、今年から生産者が 1 名増え、検討会後各栽培者のほ場へ移動し、新規生産者から誘引方法や害虫の確認方法、施肥の方法など質問があり、会長から丁寧な説明があった。

くろしおピーマングループでは、今年の栽培状況、病害虫の発生状況などの確認を行い、生産者から果実の症状などについて質問があった。

現地検討会（くろしおナス組合、新宮市）

栽培検討会（くろしおピーマングループ、那智勝浦町）

3．クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる、もも、うめ、さくらなどバラ科植物への被害が紀北及び紀中で確認されている。当地域への侵入、被害の拡大を防ぐため、早期の発見と駆除が重要である。

農業水産振興課の職員が、6 月 18 日から 30 日にクビアカツヤカミキリの発生状況を調査した。20 地点の圃場のうめ、公園のさくら計 700 本において株元やその周辺にクビアカツヤカミキリの成虫やフラスが無いかを目視により確認した。

今回、成虫やフラスは確認されなかったが、チラシの配布等による生産者や関係機関への注意喚起を継続する必要がある。

調査の様子（古座川町）

4．那智勝浦町の小、中学生がスイートコーンの収穫を体験

6 月 25 日に下里中学校の生徒 4 名、6 月 26 日に宇久井小学校の児童 23 名が那智勝浦町南大居にてスイートコーンの収穫体験を行った。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として開催している。

各体験では圃場主の松本安弘氏（くろしお熊野やさいグループ会員）からスイートコーンの収穫に関して説明があり、その後、スイートコーン品種「味来」を 4 本ずつ収穫した。

農作業や害虫などの農業に関することやスイートコーンの食べ方に関する質問があり、松本氏は各質問に丁寧に回答した。隣接するほ場で生育中のなすやオクラにも興味を持っていた。

今後も食育活動を実施し、児童、生徒たちが食や農業への関心を持つ機会となるよう継続して取り組んでいく。

収穫方法を聞く児童、生徒たち

Ⅷ　農林大学校

１．２年生のインターンシップ研修

6 月 9 日～23 日、本校 2 年生の学生 14 名がインターンシップ研修に参加した。学生は、卒業後の希望進路ごとにわかれ、就職あるいは就農につながる農業法人、先進的な取組を行っている農家やＪＡ、農業共済組合などで現場での仕事を経験した。

インターンシップ研修は、社会に出る前に実際の仕事の現場を経験し、現場の人の話を直接聞くことにより、自身が社会でどれだけ通用するのか、不足しているものが何であるかを確認する貴重な体験となっている。実際に、研修に参加した学生は、将来の目標に向かって大きく成長したと手ごたえを感じている。

最後になりましたが、学生を受け入れてくださった研修先の皆様に心より感謝いたします。

なすほ場での研修風景

いちごほ場での研修風景

普及活動現地情報　発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489